

la santé 健康

ラ・サnte



vol.169
令和8年1月27日

2026 新春

編集・発行：社会医療法人玄真堂
広報委員会：二木麻衣、壇 千恵子
〒871-0012 中津市宮夫14-1
TEL0979-24-0464
<http://kawashimahp.jp>



『椿』川端 照代 画

理念

- 地域・住民・患者から評価・信頼される医療・介護を提供します
- 安心・安全・やすらぎ・心のこもったサービスを提供します
- 絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上します

運営方針

- 整形外科の専門病院として、良質の医療を提供できるように最善の努力をします
- 患者、利用者の権利を尊重し、インフォームド・コンセント（説明・同意・納得）を含む安全管理を徹底します
- 「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の精神を尊重します
- 社会の変化にシなやかに対応しながら心技態を切磋琢磨し、全人間的な成長を目指します
- 地域の皆様の健康と生命を守るために最善を尽くします
- 職業を通じて地域社会に奉仕し、地域の社会的共通資本として認められるように努力します

新年のごあいさつ

社会医療法人 玄真堂 川瀨整形外科病院

院長 川瀨 眞之



新年あけましておめでとうございます。

地域の皆さまには、日頃より当法人の活動に深いご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、大分市佐賀関の火災をはじめ、各地で相次いだ災害や事故は、日常の診療だけでなく、災害や突発的な事故が発生した際にも医療機関が果たすべき役割や、地域との連携の重要性を改めて認識させるものでした。

一方、医療・介護を取り巻く環境は引き続き厳しい

状況にあり、物価高騰への対応、診療報酬改定や人材不足など、多くの課題に直面した一年でありました。そのような中にあっても当法人が地域医療を継続できましたのは、患者さまやご家族、地域の医療・介護・福祉関係者の皆さまのご支援、そして現場で力を尽くしてきた職員一人ひとりの努力によるものと深く感謝しております。

今日、全国各地で看護学校の閉鎖が相次いでいます。そして中津市周辺の看護学校も例外なくその危機に直面しています。看護師は地域医療を担う要であり、地域には決して欠くことのできない存在です。今の時代、都会に進学した学生が地域に戻る可能性はかなり低いと思われます。地

域に看護師がいなくなることは、その地域の医療崩壊を招き、未来を閉ざすことになると思います。行政の方には強い危機感をもって頂き、是非とも地元のエdukation機関には手厚い支援をお願いしたいと思います。

さて、本年は医療の質と安全性を確保しながら、限られた医療資源を有効に活用し、持続可能な医療提供体制の構築に一層力を入れてまいりたいと思います。

あわせて、地域の医療機関や介護・福祉施設との連携をさらに強化し、切れ目のない医療・介護の提供を目指してまいります。

当法人は市内でもいち早く保育所を設置し、長年、職員が安心して働き続けられる環境づくりに取り組んできました。医療・介護を

支える人を大切にするのが、結果として地域を守ることに繋がると考えております。少子化で働き手が

少なくなる中、AIやICT、DXなどのデジタル技術の活用を進め、診療やケアの質向上と業務の効率化の両立を図ってまいります。

昨年は胸部単純X線用の画像診断AIの導入を行い、患者さまの画像検査や職員健診に対する精度を高めました。本年は、電子カルテのAI導入を行い、看護師の入力支援を行っていく予定です。

皆さまにとって、この一年が健康と安心に満ちた年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



去る9月4日、北九州市において、北九州アロク医師会全体協議会が開催され、北九州市から豊前市に至る各医師会の幹部の先生方が集まった。総会の後、筆者が「医学史から見たパンデミック（世界的大流行）と医師のバイオエナジック」のテーマで講演をする機会を得た。



川崎 真人

2019年12月、中国から始まった新型コロナウイルス感染症は瞬く間に全世界に拡大し、翌年から日本にも拡大し3年間は、この感染症との闘いに明け暮れる日々であった。最初の検査薬もワクチンも治療薬もないままに瞬く間に日本中に広がり、志村けんさんの死など驚くことが次から次と報道され日本中がパニック状態になっ

たことが昨日のように思い出される。このコロナは第1波、第2波、第3波、第4波、第8波と23年まで日本に襲来し、ようやく同年5月8日、5類移行となり、その後は正確なデータは取られていない。今日においては普段の生活に戻っているが、感染が終息したわけではなく、感染者がちらほらと戻っている現状もある。

このコロナ感染症の国内の死者数は23年までで約7万5千人で世界の死者数は688万人にも及び、米国のコロナ死者数は日本の15・4倍で、日本の死者数は驚くほど少なかった。このことは国民が一致団結してマスクを活用し密集を避け、患者の隔離、ワクチンの使用、さらに国民挙げて全力で治療と予防にあたった結果である。

（川崎整形外科病院理事長・中津市）



厚生労働省はパンデミックを感染症の世界的大流行と定義している。石弘之氏の「感染症の世界史」によれば、大流行した感染症の死者はベストが14世紀に2億人、1918年から流行したスペイン風邪は5千万人だったと見ク



川崎 真人

いう。また、英国のBBCによくと、20世紀だけでも天然痘で3億人とはるかに新型コロナウイルスを超越するパンデミックが人類史上記録されている。

日本においても仏教伝来とともに天然痘が発症したことが報告されており、特に聖武天皇の天平年間には大流行し人口の30%が死亡したといわれ、極めて死亡率の高い感染症として恐れられた。聖武天皇は仏教への帰依を深

め、宇佐神宮の支援も得て東大寺と盧舎那仏を創建し、人心の動揺を鎮めた。江戸時代になっても最も恐るべき感染症の一つとして知られており、度々大流行していた。中津藩では幸島正庵が実子を天然痘で亡くしたことから天然痘の勉強会をしていた。1849年、正庵は長崎に9人の医師と、その子と

もたちを連れて出向き、出島の医師モーニックが持参してきた種痘を行い、藩士に嘆願書を出し、2千人に種痘をした。その種痘所は61年、医学館となり、71年には県内最初の医学校、中津医学校となり、80年には大分医学校、さらに今日の県立病院へと発展していった。

パンデミックは大変な闘いであったが、医師たちのバイオエナジックによって医学の進歩の原動力となった。（川崎整形外科病院理事長・中津市）

大分合同新聞 2025年（令和7年）11月3日（月曜日）

大分合同新聞 2025年（令和7年）10月2日（木曜日）

全日本病院学会 in 北海道に参加して

看護部 3階病棟 副主任 上田 亜紀

2025年10月11日〜12日、北海道で開催された全日本病院学会に参加してきました。今回、『脊椎プロジェクトチームの立ち上げとその成果』について発表させて頂き、とてもいい経験となりました。また、全国各病院の発表を聞く事で多くの情報を得ることができ、特に医療職員の

初めに北海道を訪問しましたが、気候も良く北海道ならではの食事や観光も楽しむことができました。今後も患者様へ安

り良い医療の提供のため、医療DXの活用で様々な工夫をされている事が印象的でした。

心、安全な看護が提供できるよう、脊椎プロジェクトチームの一員としてマニュアルの整備等に携わっていききたいと思えます。



『骨と関節の日』を終えて

骨粗鬆症委員会 坂山 弘子

皆さまは、『10月8日は骨と関節の日』というのをご存知でしょうか。毎年、この時期になると全国で関連イベントが行われます。当院でも一般の皆さまを対象に講演会などを行って参りました。

今年は10月4日（土）に、

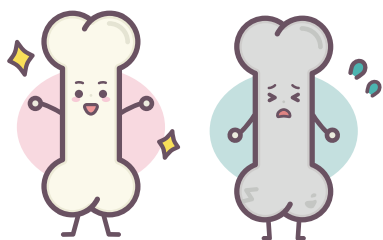
永芳クリニック所長による『骨粗鬆症について』と、尾園看護師による『あなたが利用できる地域連携システム』についてお話がありました。

地域の皆さまの健康へのお手伝いだけでなく、入院後の生活不安へのご相談など、生活と医療と介護の架け橋としての地域連携のあり方などが紹介されました。特に加齢に伴う骨粗鬆症は昨今の中でも最も大切なポイントになって

います。皆さまも是非、御自

身の骨の状態など調べてみられてはいかがでしょうか。予約は不要ですので、いつでも外来にてご相談いただければ幸いです。また、不安やご不明な点もお気軽にご相談ください。

骨粗鬆症委員会は、これからも皆さまが元気で過ごしていける活動を続けていきたいと思っています。



Dr. コラム



「肩」という漢字の成り立ち

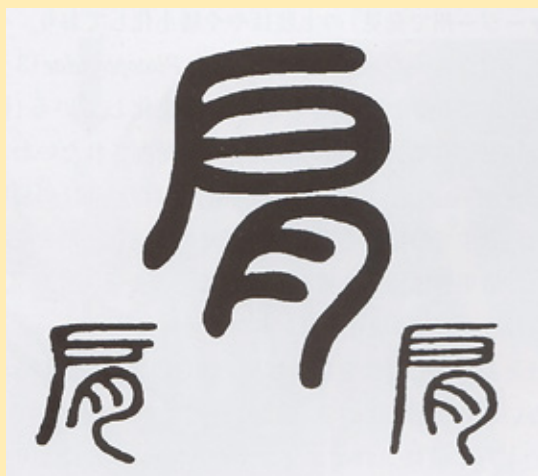


医局 診療部長
佐々木 聡明

「肩」という漢字は、視覚的な情報と発音が組み合わせられてできています。漢字の中の「月」は「肉月（にくづき）」と言われ、体の部位に関係のあることを示しています。そして、「戸」は音を表す「音符」としての役割を持ち、「戸」が「ト」や「コ」と読まれることが転じて、「カタ」という発音になったと言われています。また、「戸」は扉や狭

い入り口を意味し、その「戸」の形が体で狭くなっている肩の形や肩甲骨が腕に連なる骨臼部分の形に似ているところから、この漢字が選ばれたと言われています。このように、「肩」は形（戸の形や肉づき）と音（戸の発音から転じたカタ）の両方からその意味と読みが導き出される、漢字の面白い特徴を持っています。加えて「肩」は日常生活においても様々な場面で登場しま

す。「肩幅」など身体の一部を表したり、「肩の荷が下りる」や「肩を並べる」など役割や責任、社会的な地位を表す比喩的な表現に用いられたりしています。皆さんも「肩の力を抜いて」読んで頂ければ幸いです。



第42回マンダラゲの会に参加して

社会奉仕委員会 病院事務 松垣 夏実



2025年10月18日(土)、第42回マンダラゲの会が大江医家史料館にて開催されました。直前まで雨が降っていました。大津江家史料館薬草園での薬草の採種・手入れの際には雨もやみ、多くの方にご参加いただきました。その後、西蓮寺にて東洋学園大学・東洋学園史料室室長の永藤欣久先生に『川島ミツエと

の歩まれてきた人生や当時の時代背景も交え、とても興味深いお話を聞くことができ、マンダラゲの会を通して中津に関する歴史や貴重なお話を聞く機会をいただけたことを嬉しく感じました。



今回の職員旅行では、広島県の歴史と自然、そして職場の方々とのつながりを深く感じる、かけがえのない時間を過ごすことができました。平和記念公園や資料館では、原爆の悲惨さを実感し、日常の尊さと医療に携わる者として「一人ひとりの生活を守るためにできることは何か」を改めて考えさせられました。また、厳島神社や街並みの散策では、同期だけでなく先輩や普段話す機会の少ない他部署の方々と交流することができ、業務に対する多角的な視点からのアドバイスをいただき、貴重な時間となりました。その中で、患者様一人ひとりに対して、入院時から退院までの一連の過程の中で、多くの方々が関わっていることを再認識し、多職種連携の重要性を学びました。今後



患者様の為、そして、自身の成長の為に日々精進しなければ、と刺激をいただきました。1年目でまだ不安も多い中、この旅行を通じて職場の人々の温かさを実感し、今後の業務の励みにもなりました。広島県の魅力と医療職としての責任、さらに人とのつながりの大切さを強く感じた、忘れられない旅行となりました。

職員旅行―広島県広島市―

病院リハビリテーション科 友成 天音

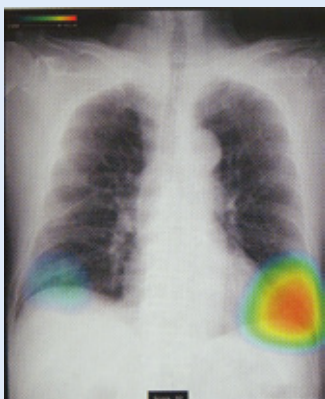
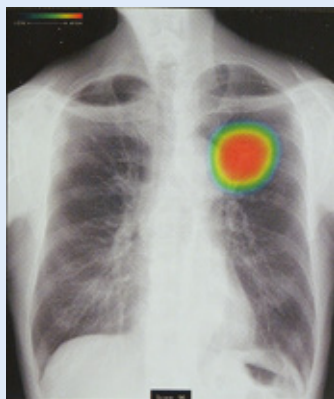


AI画像診断ソフトのご紹介

放射線科 主任 清水 啓司

高齢化に伴い当院にも整形外科以外の疾患をお持ちの方が多く来院、入院するようになってきました。その為に、全身状態が把握できる胸部X線画像の重要性が益々上がってきています。手軽な検査の為に入院時や健

診時には必ず行う検査です。しかし、胸部X線画像は読影が大変難しい画像です。そこで胸部X線画像病変検出ソフトウェアを導入する事になりました。このソフトはAI技術を使い、胸部X線画像を自動解析し、病変が疑われる部分にマーキングするものです。主に結節・腫瘤影、浸潤影、気胸影を検出します。病変の疑わしさに応じてマーキングの色も変化するようにしています。その場所を医師が再確認する事で見落としを防止しています。今後も、もっと多くのAI技術が医療界に導入される事になると思います。



二豊高齢者骨折フォーラムのご紹介

地域医療福祉連携室 副主任 小倉 涼子

当院では高齢者の骨折に対応するべく、大腿骨近位部骨折や脊椎圧迫骨折の地域連携パスを使用しています。地域連携パスとは、地域の医療機関や介護施設が連携し情報共有しながら治療計画を進める仕組みであり、18

年程前から取り組みを開始してきました。関連する医療・介護施設の意見交換の場としての研究会を年3回開催することで、

各施設や職種間の枠を超えて、どのような問題を抱え取り組みをしているかなど情報共有・意見交換が行われています。骨粗鬆症について知識を深め各病院の取り組みを発表したり、各施設の現状や困難事例について話し

合いを行ったりするなど、二豊高齢者骨折フォーラムと名付けられた本研究会は、医療・介護の連携を図るため垣根のない顔の見える関係づくりの場

となっています。入院後の生活への不安をお持ちの方々、あるいは他施設

の方で地域連携に興味をお持ちの方がいらつしゃいましたら、ぜひ地域医療福祉連携室にお声がけください。いつでもお待ちしております。



盲導犬育成を応援しよう！

書き損じはがき回収活動について

社会奉仕委員会 高気圧治療科 副主任 宮田 健司

当法人では社会奉仕委員会を主体に『書き損じはがき』の回収活動を行っています。書き損じはがきとは“不要となった未投函（消印がない）且つ料額印面が確認できる官製はがき”のことです。主に書き損じて投函が出来なくなったはがきを回収目的とし『書き損じはがき』と総称されていますが、未使用のまま保管されて不要になった過去の年賀はがきなども含まれます。回収した書き損じはがきは、中津ロータリークラブの活動を通じて換金されたのちに盲導犬の育成支援活動へ寄付されます。2022年度には過去最高の1550枚を回収することが出来たものの、それ以外の年度では300～400枚程度に留まっています。厚生労働省の報告では2025年10月時点での盲導犬実働頭数は768頭とされていますが、盲導犬を必要としている方はおよそ3000人もいるというデータもありました。また、盲導犬を育成するためには1頭あたり400～600万円という費用がかかるとされています。この状況から考えると非常に微力ではありますが、書き損じはがき回収活動を通じて盲導犬の育成や普及に少しでも貢献できればと考えています。

そこで、もしご家庭に眠っている書き損じはがきがありましたら寄付をして頂けないでしょうか？書き損じはがき回収【盲導犬の育成支援】活動にご協力をお願い致します。川島整形外科病院とかわしまクリニックの受付にて回収をしております。なお、郵送でも構いませんが寄付の観点から送料等の負担は出来兼ねますので、ご了承のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



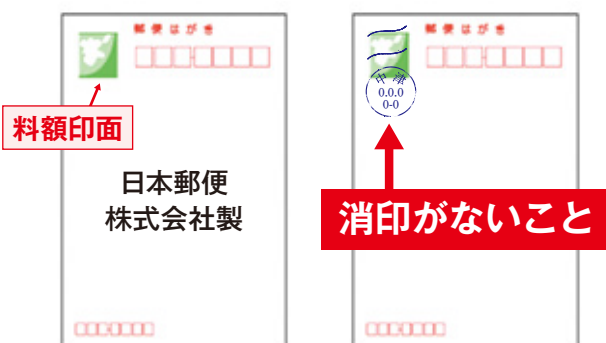
《書き損じはがき回収の条件》

- 官製はがきであること

※（日本郵便が販売している、すでに切手が印刷されているはがき）

- 未投函である（消印がない）こと

- 料額印面が確認できること



書き損じはがき回収活動にご協力をお願い致します。

社会医療法人玄真堂 社会奉仕委員会

川畠整形イルミネーション

事務局 加藤 裕成

2024年からではあります、イルミネーション設置作業のお手伝いを事務局員がするようにしました。イルミネーションの飾りつけの経験が少なく、時間も掛かり悪

戦苦闘しつつの作業ではありましたが、2025年も無事飾り付けを終える事ができました。総作成時間は12時間30分の力作です。

今回のテーマは『トナカイのキャンパスストロベリームーンを添えて』です。点灯時間は18時〜21時30分までとなっております、場所は病院の正面玄関になります。

現在(2026年1月末時点)は点灯終了していると思いますが、地域の皆様・患者様・職員の皆様に綺麗ななと思っただければ幸いです。



なのみクッキングを行いました♪

介護老人保健施設なのみ 事務 柚木 尚美

2025年12月2日(火) 食堂にて♪なのみクッキング♪を行いました。作るのは『ホットケーキ♥』。利用者の皆様は気合十分。用意された材料を手際よく混ぜ合わせ、「わしに貸してみなさい!こうやって生地を焼くんよ」と100歳の利用者様を筆頭に、きれいなホットケーキが焼き上がりました。仕上げはトッピングにジャムとホイップクリーム。お好みに合わせ、あんこもご用意しました。食堂には甘〜い香りと楽しそうな笑い声。とても幸せを感じた時間となりました。※ご用意したホットケーキは見事完食です。*(^^)*



募金活動のご報告

2025年は当法人で、「24時間テレビ」と「大分県佐賀関大規模火災」への募金活動を行いました。24時間テレビチャリティ募金はボランティアスタッフを務める東九州龍谷高校の生徒さんへ、大分県佐賀関大規模火災の義援金は中津ロータリークラブを通じて寄付いたしました。

●24時間テレビ 50,136円

●大分県佐賀関大規模火災 132,736円



健康教室のおしらせ

健康維持にまつわる講演を開催しています。当法人スタッフが講師をつとめ、地域の皆様のお役にたてる内容となっております。毎回講演内容も変わり好評をいただいております。

50名程度の参加が可能となっておりますので、どなたでもお誘いあわせのうえお気軽にご参加下さい。

- 日 時 2026年2月21日(土) 13時15分から14時まで
- 演 題 病気に負けない身体づくり カラダ
- 講演者 介護老人保健施設なのみ 副施設長 沖本 稚佳子
- 場 所 病院1階玄真堂ホール (無料)

講演の内容は変更になる可能性があります。

参加希望の方は感染予防の為マスク着用をお願いいたします。



三光コスモス祭り2025

高気圧治療科 統括科長 山口 喬

11月3日、爽やかな秋晴のもと、理事長率いるアンデスの会・一節截の会は三光コスモス祭りのステージイベントにてケーナ・篠笛・一節截を演奏してきました。西日本最大級、約2,000万本のコスモスが咲き誇るコスモス園は今年も圧巻。見渡すかぎり広がる多彩なコスモスはまさに壮観でした。そのうえ今年は、10月公開の映画『ストロベリームーン』の世界観を再現した“季節外れのひまわり畑”まで登場し、コスモスとひまわりの共演がとても美しく映えていました。毎年さまざまな工夫が凝らされて



おり、何度訪れても飽きることがありません。まだ行ったことのない方は、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

実は…私たち玄真堂は古紙再生活動を20年以上行っています！

事務局 総務部副主任 瀬口 清美

ラ・サンテをご覧の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、題名にもございますように、私たち玄真堂は大分製紙豊前工場へ不要になった書類を持ち込んで、トイレットペーパーの材料に活用していただいております。

年2回、春と秋ごろに各事業所より不要になった書類を集め、ワゴン車3台で工場まで運んでいます。1回あたり1000キロを超えることもあり、総務部の力自慢の男性職員が毎回一生懸命運んでくれています。かなり大変ですが、みんな頑張ってくれています。大分製紙豊前工場様にも毎回大変よくしていただき、20年以上の活動を続けることができております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後も引き続きこの活動を続けてまいりたいと思っております。



2025.11.21
「当院で行っている低侵襲な手法による脊椎手術（8種類）」
吉田脊椎脊髄センター長

カワシマハンドセラピー研究会

2025.9.22
「症例報告」
永田作業療法士・奥貞作業療法士
「複合性局所疼痛症候群：CRPS」
永田作業療法士

2025.10.20
「症例報告」
橋内作業療法士・川端作業療法士
「偽関節」
中埜作業療法士

2025.11.17
「症例報告」
奥貞作業療法士・岸本リハビリテーション部副主任
「手・手指の機能解剖のおさらいと動作解析」
杉本リハビリテーション部部長代理

膝関節勉強会

2025.9.10
「脛骨高原骨折における荷重管理と最近の知見」
首藤理学療法士

2025.10.8
「膝痛と末梢神経について」
羽田リハビリテーション部主任

2025.11.12
「ACL再建術」
吉野理学療法士

脊椎勉強会

2025.11.4
「頸椎性脊髄症、胸髄症に対して、椎体形成術を施行した症例」
齊藤リハビリテーション部主任

スポーツ医学勉強会

2025.9.1
「AI」
吉野理学療法士

「相撲」
尾道理学療法士

2025.10.6
「スポーツドリンク」
川野理学療法士

2025.11.10
「Overhead athletesにおける絞扼性末梢神経障害について」
羽田リハビリテーション部主任
「運をよび込むには②」
古江副院長

看護部勉強会

2025.9.2
指導者研修①
2025.9.2・9.12
副主任研修②
2025.9.6
新入看護職員研修
「医療安全」
「夜勤で求められる看護」
2025.9.16・9.24
実習指導者学習会②
2025.10.7
副主任研修③
「組織と経営について」

院外発表・講演

2025.9.4
第48回北九州ブロック医師会全体協議会（福岡県）
「医学史から見たパンデミックにおける医師のパイオニア精神」
川島理事長講演

2025.9.11
運動で健康づくり推進員養成講座「元気ハツラツ体操」（中津市）
「運動障害とその予防」
奥村リハビリテーション部統括科長講演

2025.9.19～20
第36回日本末梢神経学会学術集会（福岡県）
「腕神経叢に対する局所振動刺激が上肢の筋出力に及ぼす影響」
羽田リハビリテーション部主任発表

2025.10.11～12
第66回全日本病院学会 in 北海道（北海道）
「脊椎プロジェクトチームの立ち上げとその成果」
上田看護部副主任発表

2025.10.16～17
第40回日本整形外科学会基礎学術集会（青森県）
「変形性膝関節症患者の歩き始め動作における下肢セグメント間の協調性パターンについて」
羽田リハビリテーション部主任発表

2025.11.15～16
第150回西日本整形・災害外科学会学術集会（宮崎県）
「種子骨障害と診断し手術を行った結果、腱滑膜巨細胞腫だった1例」
角田医師発表

2025.11.22～23
第13回日本運動器理学療法学会学術大会（大阪府）
「体表から計測した脛骨傾斜角と単純X線画像によるアライメント指標との関連性」
辛嶋リハビリテーション部副主任発表
「初期変形性膝関節症患者の歩行時の下肢セグメント間協調性パターンの特徴」
羽田リハビリテーション部主任発表

「超音波画像診断装置による視覚的フィードバックを用いたパテラセティングが膝伸展筋力に与える即時的影響」
尾崎理学療法士発表
「新鮮前十字靱帯損傷に対する鏡視下一次縫合術後の経過」
吉野理学療法士発表
「肘関節および前腕の関節可動域制限がハンドル操作に及ぼす影響」
岸本リハビリテーション部副主任発表

2025.11.29～30
九州理学療法士学術大会2025 in 大分（大分市）
「下腿三頭筋に対する局所振動刺激が柔軟性に与える影響―局所電気振動刺激を加える部位の違いによる比較―」
羽田リハビリテーション部主任発表
「荷重条件の差異による脛骨傾斜角の変化が歩行時の膝関節内反スラストに及ぼす影響」
辛嶋リハビリテーション部副主任発表
「外傷性腱板断裂を呈し、肩周囲筋機能改善に伴う自動拳上獲得を目指した一症例」
川野理学療法士発表

2025.11.29～30
第126回日本医史学会総会・学術大会（奈良県）
「東京医科歯科大学の開祖と東洋女子歯科医学専門学校」
川島理事長講演

院内勉強会

モーニングセミナー

2025.9.19
「高気圧医学と私の歩み」
川島理事長

2025.10.17
「運を良くする」～宝くじを当てるには～
古江副院長

- 看護部 藤沢教育担当副師長
「失敗の本質 戦場のリーダーシップ編 編著：野中郁次郎」より

第23回 2025年10月3日

- 事務局総務部 野依大希
「働き方『なぜ働くのか』『いかに働くのか』稲盛和夫」より
- 老健のみ 水嶋副主任
「中津祇園について」より
- クリニックリハビリテーション科 羽田主任
「ゾーンに入るEQが導く最高パフォーマンス 日経BP2024年12月5日発行」より
- 4階病棟 大森副主任
「看護補助者の確保と定着に向けた取り組み」より
- 回復期リハビリテーション科 合津理学療法士
「100円のコーラを1000円で売る方法 永井孝尚」より

第24回 2025年11月7日

- 5階病棟 清水副主任
「日経メディカルSPECIAL特別編集版『その指導、パワハラかも』」より
- 5階病棟 徳永師長
「れいろうP10～23 歴史作家河合敦『良いこと』の落とし穴」より
- 薬剤科 杉原主任
「ニューモラル672号」より
- 訪問看護リハビリステーション 石井瑛
「第16回家族のきずな『エッセイ作品集』」より
- 高気圧治療科 宮田副主任
「ソニー・太陽 社長付アドバイザー吉廣匡介氏より障がい者における雇用の最先端～ソニー・太陽株式会社の取り組み～」より
- 訪問看護リハビリステーション 中野主任
「安藤広大著 数値化の鬼『仕事ができる人』に共通する、たった1つの思考法」より

- 2025.10.21
レベルIII
「臨床推論・臨床判断」について
- 2025.10.22
脊椎勉強会
- 2025.10.22・10.28
指導者研修②
- 2025.11.5
看護部勉強会
「看護師の看護補助者教育について」
- 2025.11.8
新入看護職員研修
「多重課題への対応・夜勤の振り返り」
「整形外科看護技術の演習」
- 2025.11.11・11.18
副主任研修④
- 2025.11.26
脊椎勉強会

水 滴 塾

第22回 2025年9月5日

- 医師秘書 渡邊副主任
「『妹と原爆』田村醒郎」より
- ひだまり 檜原副主任
「細菌学者・医学博士 北里柴三郎について」より
- 企画情報部 清成主任
「企業リサーチ 1369号 中小企業における『2025年の崖』の克服」より
- ひだまり 三角千津
「PHP2025年5月号『特集 心が晴れる新習慣』」より
- 回復期リハビリテーション科 斉藤主任
「致知『四書五経の名言に学ぶ』徳は身を潤す『大学』田口佳史」より
- 手術室 久保田技術主任
「メンターになる人、老害になる人」より

医局抄読会

第1、2、4火曜日の朝7時45分スタート

- 2025.9.9
高気圧酸素治療：ミトコンドリア機能と酸化ストレスへの影響
川島院長
- 2025.9.30
股関節骨折後の合併症の危険性
佐々木診療部長
- 2025.10.7
小児上腕骨顆上骨折（伸展型）において「ぼんやりした境界」と神経損傷の関係について
後藤診療副部長
- 2025.10.14
大腿骨転子部及び大腿骨転子下骨折の治療における短髓内釘と長髓内釘の比較
角田医師

- 2025.10.28
術前にトラネキサム酸を投与した症例における血栓症と死亡率に関して
越智医師
- 2025.11.4
関節靱帯の特性に対する性ホルモンの影響 システミックレビューとメタ分析
本山副院長
- 2025.11.25
ペルテス病の長期予後
古江副院長

論文（共同含）・誌上発表

- 古江幸博：陈旧性上腕三頭筋断裂の1例，整形外科と災害外科74（3）：97～102，2025
- 後藤 剛：当院におけるTriplane骨折8例の治療経験，整形外科と災害外科74（4）：89～94，2025
- 辛嶋良介，他：Effects of weight-bearing-induced changes in tibial inclination angle on varus thrust during gait in female patients with knee osteoarthritis.，Biomechanics5（98）：2025



第43回 玄真堂友の会のお知らせ

テーマ 「健康に幸せに生き抜くために 腸活・骨活・眠活」

●開催日：2026年3月21日(土) 14:00~16:30

●場 所：川蔦整形外科病院 1F 玄真堂ホール

会員以外の方も入場無料です。

当院理事長達によるケーナの演奏など、心身ともに楽しめる内容となっております。

お知り合いの方々をお誘い合わせの上、ぜひお越しくださいませ。



玄真堂友の会 新規会員募集中!

年会費2,000円
入会金なし

会員特典

- ① 高圧酸素健康増進コース 10%OFF
- ② 健康増進特別健診外来 10%OFF
- ③ 玄真堂情報誌の送付

【お問い合わせ】

川蔦整形外科病院 玄真堂友の会 事務局
〒871-0012 大分県中津市宮夫17
TEL:0979-24-0464 FAX:0979-24-6258

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
いつもラ・サンテのご愛読ありがとうございます。
本年も様々な情報を読みやすく分かりやすくお届けできるよう、職員一同がんばってまいります。まだまだ寒い日が続きますので、お身体ご自愛くださいませ。
今年もどうぞよろしくお願い致します。

(M・F)

患者さんの権利と責務

権 利

1. 病気の種類や個人的背景に関係なく、平等に医療を受ける権利があります。
2. 人格は尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで最善で安全な医療を受ける権利があります。
3. 医療に関して十分な説明、情報を求める権利があります。
4. 医療内容について、医学的に必要な情報提供を受けたうえで、自分で選択し決定する権利があります。
5. 医師・病院を自由に選択し、他の医師の意見を求める権利があります。
6. 自己の意思に反する医療を拒否する権利があります。
7. 意識が無い判断能力を欠く場合や未成年者の場合、代行者に決定を委ねる権利があります。
8. 自己の診療記録の開示を求める権利があります。
9. プライバシーや個人情報を保護される権利があります。
10. 健康維持のため教育やサービスを受ける権利があります。
11. 安全を確保される権利があります。

責 務

1. 医療提供者に対し、患者さんご自身の健康に関する正確な情報の提供をお願いします。
2. 他の患者さんの療養生活に支障を与えないよう配慮をお願いします。
3. 早期回復の為、医療提供者が定めた規則の遵守をお願いします。
4. 円滑な医療行為のための、医療提供者との協力関係の構築をお願いします。
5. 早期回復の為、患者さん・ご家族の積極的な医療への参加をお願いします。
6. 医療の安全性を高めるために最大限の努力を行っていますが、あらゆる医療行為は本質的には不確実です。意図せざる結果や予期しえぬ病気が発生する場合があることをご理解ください。
7. 診療費の遅滞ない支払いをお願いします。

広報誌 ラ・サンテの最新号および過去数年分のバックナンバーをPDFでご覧いただけます。

社会医療法人玄真堂川蔦整形外科病院の
医療に関する活動などお届けしております。

<http://kawashimahp.jp>

かわしま



こちらからも
アクセスできます

